

2021年度 大阪電気通信大学高等学校 自己評価・学校関係者評価 報告書

1 めざす学校像

(1) 教育目標

- 一. すべての生徒に確かな知識を与えよう
- 一. 人間の生き方を教える教育をしよう
- 一. 心身ともに健康な生徒を育てよう

(2) 各科・コースの特長 (2021年度のコース)

普通科

進学総合コース

高大連携プログラムを通して、自分の適性を探究する。大阪電気通信大学進学を基盤に、理系・文系の学びを通して、幅広い進路選択を行う。

アドバンスコース (選抜)

2学年より難関私立大学合格のためにアドバンスコースを1クラス編成する。普通科のカリキュラムをベースとして、志望大学にあわせた学力を身につける。

メディア情報コース

普通科のカリキュラムをベースとして、画像処理、CG、サウンド、Web等のメディアに関する様々な表現方法を学ぶ。大阪電気通信大学総合情報学部ゲーム&メディア学科をはじめ、文系・理系を問わない多様な進路を目指す。

健康スポーツコース

学習と部活動を両立させ、スポーツを通して健康科学を学ぶ。大阪電気通信大学健康スポーツ科学科をはじめ、体育・スポーツ系、医療・福祉系などへの進学を目指す。

工学科

理数コース (特進)

工学科専門科目を通して、思考力と実践力を養い、電子情報技術を習得する。数学、英語、理科を中心に学力を強化し、国公立大学や難関私立大学などへの進学を目指す。

工学連携コース(1年次)

共通科目を1年間学ぶ。大阪電気通信大学見学会やコース説明会などを通じ、2学年からのコース選択にそなえる。

医療電子コース

医療と工学を学ぶ。大阪電気通信大学へ進学することで、臨床工学技士、理学療法士を目指すことができる。

デジタルゲーム開発コース

C言語プログラミングにてゲームプログラミングの基礎と応用を学び、ゲーム開発エンジンを用いて3Dゲームを開発する。大阪電気通信大学デジタルゲーム学科等への進学を目指す。

ロボット機械コース

2足歩行ロボットの製作を通じて、機械、センサー、電子回路、プログラミングの知識と技術を習得し、大阪電気通信大学電子機械工学科、機械工学科、環境科学科等への進学を目指す。

IoT情報通信コース

ワンボードマイコンを用いた実習を通してIoTの基礎と活用を習得し、大阪電気通信大学電気電子工学科、情報工学科、通信工学科、情報学科等への進学を目指す。

電子情報コース(2021年度3学年まで)

電気・電子・情報・ロボティクスなどについて学び、大阪電気通信大学工学部、情報通信工学部等への進学を目指す。

2 中長期的目標

- ・ 生徒の確保に向けた特色ある高校づくり
 - ・ 生徒募集および退学者数の削減
 - ・ 大阪電気通信大学との連携強化と特色ある学校づくり
 - ・ ICT教育の推進
- ・ 「知」「徳」「体」を基本とした教育の実践
- ・ きめこまかい指導の充実

	重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
授業を大切にし、 確かな知識を与える	●魅力ある授業を展開し展開し、生徒の学力向上と離学率の低減を目指す。	ア・授業アンケートを活用し、授業の質を高めていく。 イ・生徒との面談、家庭との連絡を密にする。	ア・授業アンケートの「わかりやすく、理解しやすい」「総合的な評価」各項目のパーセンテージの上昇。 (2020年度: 「わかりやすく、理解しやすい」 強くそう思う 38% そう思う 32% 「総合的な評価」 強くそう思う 39% そう思う 33%) イ・離学率 3%未満	ア・授業アンケート結果 2021年度: 「わかりやすく、理解しやすい」 強くそう思う 45% そう思う 30% (○) 「総合的な評価」 強くそう思う 44% そう思う 31% (○) イ・離学率 3.7% (×) 単年度での離学率だけでなく、3年間の離学率減少も目指していく。
人間の生き方を教え、 心身ともに健康な生徒を育てる	●「基本的な生活習慣を確立させる指導」「マナーや礼儀の指導」「非行の未然防止」「生活指導部主催行事、および生徒会活動を通じての学校の活性化を図る。	ア・基本的な生活習慣を確立させる。 イ・交通ルールを守らせ、自分のみならず他人の生命をも尊重させる。 ウ・いじめを防止する エ・課外活動を奨励する。 オ・資格検定取得や部活動での活躍を促す	ア・皆勤賞数を全体の2割 遅刻者数は生徒1人年間1回 イ・交通事故0件 ウ・いじめ指導処分件数0件 エ・部活動部員数が全生徒数の3分の1 オ・生徒活動奨励賞60件	ア・皆勤賞328名中43名13%(×) 遅刻件数1573件(×) 適切な目標を設定するとともに、生活指導部と学年団が連携して今後も指導していく。 イ・交通事故0件(○) ウ・いじめ事案0件(○) エ・在学者1158名中471名(○) オ・生徒活動奨励賞73件(○)
生徒一人ひとりに適した 進路を実現する	●生徒に応じた学習支援を行い、学習の成果を実感させ、進路相談、キャリア教育を行いながら、進路について目標を立て実現に向かう力を育成する。	ア・個々の希望進路に応じたきめ細かい進路指導を行い、希望進路の実現をさせる。また高い進学率を達成する。 イ・「総合的な探求の時間」を活用したキャリア教育（オープンキャンパスへの参加、資格取得の奨励、志望動機の確立等）の企画実施。 併設の「大阪電気通信大学」の体験授業、体験実習、その他文系大学の体験授業を行い、興味、関心、適性の模索を行う。	ア・進路決定率95%以上 4年制大学進学率70%以上 進路説明会各学年1回以上の実施 外部模試（年3回）実施 イ・大阪電気通信大学、その他文系大学の体験授業を行う。 大阪電気通信大学の体験実習を行う。	ア・進路決定率96.1% (○) 4年制大学進学率76.2% (○) 進路説明会（各学年1回）(○) 大学/専門学校説明会の実施(○) 外部模試（年3回）実施(○) イ・体験授業の実施(○) 体験実習の実施(○)

<p>志願者にとって魅力的な学校をめざす</p>	<p>●学校事業計画に基づき十分な入学者数を確保する。</p>	<p>ア・入学者数を確保する</p> <p>イ・学外、学内での学校説明を丁寧に行い、本校の魅力をアピールする。受験希望校になるように入試説明会へ誘導する。</p> <p>ウ・体験学習や体験入部などを通じ、本校の特色ある教育について理解を得る。</p>	<p>ア・入学者数 336 名</p> <p>イ・本校入試説明会 700 件参加</p> <p>ウ・体験学習参加 300 名</p>	<p>ア・482 名 (○)</p> <p>イ・813 件 (○)</p> <p>ウ・310 名 (○)</p>
<p>安心安全な教育環境の整備と持続可能な学校運営をめざす</p>	<p>●事業計画および活動計画に基づき、教育や生徒募集に資する環境の整備を進める。</p> <p>●諸経費を見直しや計画的な支出により、持続可能な学校運営に努める。</p>	<p>ア・教室、体育館、剣道場に視聴覚設備を設置し、ICT 機器の利用環境を整備する。</p> <p>イ・柔道場の空調設備設置</p> <p>ウ・ブロック塀改修工事 (第 2 期)</p> <p>エ・普通教室の増設</p> <p>オ・今後 5 年間の中期予算計画を策定し、大型設備投資を計画的に進めることで経営の安定化を図る。</p>	<p>ア・全普通教室、特別教室 (4 教室)、体育館、剣道場への ICT 機器 (プロジェクタ等) の設置。</p> <p>イ・設置完了</p> <p>ウ・改修完了</p> <p>エ・普通教室 3 教室を増設</p> <p>オ・中期予算計画の策定</p>	<p>ア・全普通教室、特別教室 (4 教室)、体育館、剣道場への ICT 機器 (プロジェクタ等) の設置完了。(○)</p> <p>校内の ICT 機器については年次進行により整備していく。次年度以降も引き続き整備を進める。</p> <p>イ・空調機設備の設置を完了 (○)</p> <p>ウ・正門側道路沿い、飛び地入口付近など人流の多い箇所の改修を完了した。(○)</p> <p>エ・入学者の大幅増に伴い普通教室を 3 教室増設し、それに伴い電気準備室等の整備、移転を実施した。</p> <p>2 クラス増を想定していたが、実際には 3 クラス増となり、予備教室を転用することで対応した。(○)</p> <p>オ・法人経費の一部を把握できていないことが判明した。次年度以降法人との情報共有を図り、試算精度を高めていく。(△)</p>

4 学校関係者評価委員会

学校評価アンケート・生徒アンケート・保護者アンケートの分析	学校関係者評価委員会での意見
<p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地歴・公民」「体育」「芸術」の授業の評価が高かった。 ・「施設が充実していた」と項目の評価が低い。直ちに校舎を建て替えることはできないが、それ以外のどのような部分に不足を感じているのか、もう少し踏み込んだアンケートを取ることで、次年度以降への改善が図れるのではないか。 ・「事務職員が親切に対応してくれた」という項目の評価が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近年生徒数が増えている。キャパシティの問題もあるが、あまりクラス数を抑制するのではなく、本校に来たくて仕方がないという生徒にはできるだけ門を開いてほしい。 ・入学時点で中学時代に登校等に困難を抱えていた生徒等の情報があれば、それを元にピンポイントで見守る体制を考えれば離学率は低下するのではないか。

<ul style="list-style-type: none"> ・生徒のアンケートからは、「クラスの居心地がよかった」「先生方は、色々な相談に丁寧に応じてくれた」など「本校に来てよかった」という意見が多く見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高校施設のさらなる充実が必要である。 ・資格や検定試験に挑戦している生徒が多くいる。同窓会として資格取得に対し支援したいので要望してほしい。 ・本校周辺で施設の新築などが予定されているが、町内会として生徒の安全を守るべく業者に要望を出す必要がある。 ・町内会として本校の行事にもっと密接に参加したいと考えている。体育祭や文化祭もしくは地域の清掃活動などで、町内会がともに活動できる方法を模索したい。また本校生徒が地域のことについて知る機会が持てると良い。
<p>【保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ホームページやメルポコによって必要な情報が有効に発信されていた」の項目の評価は高い。 ・「学校施設・設備は充実していた」「学校行事は充実していた」「成績不振者への学習指導は適切であった」の項目の評価が低い。 ・コロナ禍で行事などが縮小される中、様々な取り組みが実施されたことに対して評価する声がある一方、ICT機器の活用や行事の可否判断をめぐって疑問の声も聞かれた。 ・「教員や事務所の対応が適切で丁寧だった」「電通大高校に入学させてよかった」という意見が多い。本校の教育や保護者対応に対して評価を頂いており、これからも生徒や保護者の意見に素直に耳を傾けてよりいっそう丁寧に対応をしていくことが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・後援会として進路指導部と連携し、保護者向け電通大見学会などサポートしていきたい。学校施設の充実についても後援会として協力したい。 ・大学のキャンパスは年々整備が進み、美しくなっている。高校の方にも手をいれていただきたい。 ・コロナの影響で後援会の行事が2年間開催されていないことから、保護者同士のつながりも切れてしまっている。今後後援会の行事を再開し、保護者同士の情報共有をすすめたい。 ・保護者としては子どもの成長の過程を見たい。コロナで文化祭等の行事への保護者の参加が制限されており、以前実施されていた授業参観等も現在は実施されていない。保護者の参加制限を今後緩和することを検討していただきたい。
<p>【教職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生徒指導において、家庭との連携ができて」「カウンセリングマインドを取り入れた支援体制がある」と感じている教員が多い。 ・「文化祭などの学校行事」「スポーツ活動、芸術文化活動」などの取り組みについて、前年度より自己評価の上昇が見られる。 ・校内および校外における研修について一層の充実を望む声がある。 ・効果的な情報共有や会議運営を行い、個々のアイデアを実行に移していく意識を高めていく必要がある。 ・採用計画を立て、教職員を採用していく必要がある。 ・高大連携が充実していると考えている教員が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒数が増えている中で、教育の質を確保することが重要となる。アンケートによると教科間の相互理解が低い傾向にあるようだ。ベテランから若手まで教員間でもっと連携が取れるとさらに良い教育ができるのではないだろうか。 ・後援会の行事が中止となっていることで、保護者と教員の交流もコロナ前よりも減っている。今後行事を再開し、相互の交流を通じて情報共有を図りたい。 ・アンケートでは休日が多いとの指摘がある。電通大をはじめ大学の理系学部へ進学すれば、特に数学の力が必要となる。学力向上の方策をさらに講じる必要がある。